

Market Flash

「乙巳」はどんな年？
～成長の転換期となるか！～



2025.01





2025年の干支は「乙巳」（きのと・み）

「乙巳」は、「柔らかい力が変化を伴って成長する時期、古いものを脱ぎ捨てて新しい段階へと移る転換期を意味するそうです。

蛇というと少し恐ろしいイメージを持ちますが、古来、蛇は「神の使い」そして信仰の対象にされ、脱皮を繰り返して成長する様は「生命力」「復活・再生」の象徴とされています。

2025年はそんな成長力を実感できる年になるよう願うばかりです。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

干支で占う2025年 乙巳（きのと・み）

2025年は乙巳（きのと・み）

「乙巳」は、「干支」の組み合わせの第42番目で、十干の「乙」は2番目に当たる。

十干の「きのと」は、「陰陽五行思想」では「木」の性質を持ち、「陰」に属し、柔らかくしなやかな植物、芽吹き、繊細さ、柔軟性、調和といった意味を持つ。

陰陽五行説では木の陰のエネルギーを表し、植物が成長し広がっていく様を表し、柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら自身の目標に向かって進んでいく力を表している。

「巳」は十二支の6番目で、蛇を象徴する。変化、脱皮、再生、知恵、執念を意味し、新しい段階への移行や成長を暗示する。蛇には一般的にネガティブなイメージもあるが、古来より豊穡や金運を司る神様として祀られることもあり、神聖な生き物として認識されてきた。たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされている。

また、運気を上げる縁起物としては定番となっており、蛇の登場する夢を見ると吉兆とされていたり、蛇皮の財布や、蛇の抜け殻を財布に入れて持ち歩くと金運が上がるともいわれている。

乙巳の年は、柔らかい力が変化を伴って成長する時期、古いものを脱ぎ捨てて新しい段階へと移る転換期を意味する。

「乙巳」は「五行説（木・火・土・金・水）」では木（乙）と火（巳）の組み合わせになる。気が燃えて火を生み出す関係にあり、乙巳のとしは「成長が勢いを増し、発展を伴う」年とされている。

「陰陽説」では、乙は「陰」、巳は「陽」の要素を持ち、陰と陽のバランスが取れている状態で、物事が調和しつつ成長し、進展していく力が高まる。

<乙巳年の象徴するテーマ>

- ◆ **成長と変化**：古いものからの脱皮、新しい段階への成長
- ◆ **柔軟性としなやかさ**：頑固さではなく、しなやかに物事に対応する力が求められる
- ◆ **知恵と再生**：蛇が脱皮するように、禍根経験や知恵を活かし、再生・復活するエネルギーが強調される
- ◆ **火の勢い**：新しいことが燃え上がる可能性が高い一方で、バランスを取らないと焦燥や衝突も起こりやすい





* 東洋思想に見る干支 *

干支は十干と十二支の組み合わせである。

十干は太陽の運行や動物の誕生から終焉までを10等分して表現したもので、「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」で示される。

十二支は月の満ち欠けや作物の芽吹きから収穫までを12等分して表現したもので、「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」で示される。

この十干を組み合わせることで、世の中の循環、大いなる意思が司る天地の理を探ろうとしたものである。

また、干支は陰陽五行思想と呼ばれる古代中国の思想に基づいている。陰陽五行思想とは世の中のすべては5種類の元素「木・火・土・金・水」に分類され、「陰・陽」に分かれる。これらは独自の性質を持ち、お互いに影響を与え合っている。

つまり十干と十二支の組み合わせによっては、お互いを高め合ったり、もしくは打ち消し合ったり、中には片方をダメにしてしまうこともあるなど、関係性が重要な意味を持つ。

巳の雑学

【巳年生まれの特徴】

適応力と柔軟性：環境や状況に柔軟に対応し、適応する力が強い

知的好奇心：知識を求める欲求が強く、学ぶことを楽しむ

直感的な理解：直感力が鋭く、物事の本質を見抜く能力がある

忍耐強さと情熱：目標に向かって粘り強く努力し、情熱を持って取り組む

協調と慎重：他人との協力を大切にしながらも、慎重に物事を進める

【巳にまつわることわざ】

蛇に噛まれて朽ち縄に怖じる（へびにかまれて くちなわにおじる）

一度ひどい目に遭ったこと（失敗したこと）で、それ以後、必要以上に恐れ、臆病になってしまうこと

蛇の足より人の足見よ（へびのあしより ひとのあしみよ）

蛇に足があるかどうかを論じるのは無益で、自分の足元のこと（身近なこと）を考えたほうがよいということ

蛇が蚊を呑んだよう（へびがかをのんだよう）

あまりに少量でなんの足しにもならない（物足りない）こと、また、少しも影響がなくけろりとしていること

蛇の曲がり根性（へびのまがりこんじょう）

生まれつき根性の曲がった（ひねくれた）者は、直すのが難しいということ

藪をつついて蛇を出す（やぶをつついてへびをだす）

余計なことをした（言った）ために、かえって悪い結果を招いてしまうこと



巳年の主な出来事

過去の巳年を振り返ってみると、節目となる出来事が多く起こっている。

ベルリンの壁崩壊、昭和から平成へ、ITバブル崩壊、アベノミクス始動などである。

2013年	<ul style="list-style-type: none"> ○ アベノミクス始動：安倍晋三首相が経済政策「アベノミクス」を本格始動し、株価が急上昇。 ○ 東京五輪開催決定：2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定。 ○ 富士山世界文化遺産登録：富士山がユネスコの世界文化遺産に登録される。 ○ 中国の大気汚染問題：PM2.5による深刻な大気汚染が国際問題化。
2001年	<ul style="list-style-type: none"> ○ アメリカ同時多発テロ：9月11日、米国で大規模な同時多発テロが発生し、世界に衝撃。 ○ ITバブル崩壊後の景気低迷：日本経済がバブル崩壊後のデフレ不況に直面。 ○ 小泉政権発足：小泉純一郎首相が就任し、「構造改革」を推進。 ○ 大阪教育大学附属池田小事件：無差別殺傷事件が発生し、学校の安全対策が見直される。
1989年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昭和から平成へ：昭和天皇が崩御し、平成の時代が始まる。 ○ ベルリンの壁崩壊：東西冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、冷戦終結の契機となる。 ○ 天安門事件：中国・天安門広場で民主化を求める学生デモが軍によって武力弾圧される。 ○ 消費税導入：日本で初めて消費税（3%）が導入される。
1977年	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロッキード事件の判決：田中角栄元首相が収賄罪で逮捕され、有罪判決が出る。 ○ 日航機ハイジャック事件：「ダッカ日航機ハイジャック事件」が発生し、人質解放交渉が展開。 ○ 青酸コーラ事件：毒物を混入したコーラが置かれ、世間を震撼させる。 ○ 米ソ冷戦緊張：冷戦下の東西対立が続く中、核兵器削減交渉が進展。
1965年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日韓基本条約締結：日本と韓国が国交正常化を果たす。 ○ ベトナム戦争本格化：アメリカが北ベトナムへの爆撃を開始。 ○ 東京オリンピック後の経済調整：高度経済成長の中で証券不況が発生し、株価が低迷。 ○ 公害問題が深刻化：四日市ぜんそくなど公害病が社会問題となる。
1953年	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ放送開始：NHKが日本初のテレビ本放送を開始。 ○ 保安隊発足：自衛隊の前身である「保安隊」が設立される。 ○ スターリン死去：ソ連の最高指導者スターリンが死去し、冷戦構造に影響。 ○ 伊勢湾台風（影響）：大規模台風の被害が日本各地で発生。



～2024年 Top of Risksの振り返り～

例年取り上げているアメリカの国際政治学者イアン・ブレマー博士が率いるユーラシア・グループの「Top Risks」。

2025年のTop of Risks を見る前に昨年の10大リスクについて、現実はどうだったのか振り返ってみたい。2024年の10大リスクとして挙げたのは以下の通りである。

1. 米国の敵は米国
2. 瀬戸際に立つ中東
3. ウクライナ分割
4. AIのガバナンス欠如
5. ならず者国家の枢軸
6. 回復しない中国
7. 重要鉱物の争奪戦
8. インフレによる経済的逆風
9. エルニーニョ再来
10. 分断かが進む米国でビジネス展開する企業のリスク

1. 米国の敵は米国

- 予想: 米国内の政治的分断がさらに深刻化し、社会不安や政府機能の停滞がリスクとなる。
- 実際: 大統領選挙を控え、共和党と民主党間の対立は激化し、選挙運動中に各地でデモや暴力的衝突も見られた。政府機能停止（シャットダウン）の危機が数回指摘されるなど、議会運営も困難が続き、アメリカ国内の分断は深まったといえる。

2. 瀬戸際に立つ中東

- 予想: イスラエルとパレスチナの紛争、イランやサウジアラビアを巡る緊張が高まる。
- 実際: イスラエルとガザ地区の武力衝突が続き、民間人の犠牲者が拡大。イランとアメリカ・イギリス間の対立も深まり、紅海ではフーシ派による航路妨害が発生し、国際物流に影響を与えた。

3. ウクライナ分割

- 予想: ウクライナ戦争が停戦に至らず、分割状態が固定化される可能性が高い。
- 実際: 戦争は終結せず、ウクライナ東部での領土支配を巡る膠着状態が続いている。ロシア軍は反攻を強め、ウクライナ支援を続ける西側諸国との間で緊張がさらに高まった。

4. AIのガバナンス欠如

- 予想: 生成AIの急速な進展により規制が追いつかず、倫理面や社会的混乱が深刻化する。
- 実際: 生成AIの利用が加速する一方で、フェイクニュースやディープフェイクのリスクが顕在化。EUや米国ではAI規制法案が進展したものの、グローバルなガバナンスは依然として未整備のまま。

5. ならず者国家の枢軸

- 予想: 北朝鮮、イラン、ロシアが連携を強化し、国際秩序に挑戦する。
- 実際: 北朝鮮は弾道ミサイル発射を続け、ロシアとの軍事協力も強化されウクライナ派兵となった。イランは核開発を進め、西側諸国との緊張が高まった。



～2024年 Top of Risksの振り返り～

6. 回復しない中国

- 予想: 中国の経済成長が鈍化し、不動産危機や失業問題が続く。
- 実際: 中国の不動産問題は依然として深刻で、経済成長率は予想を下回る水準にとどまった。若年層の失業率も高止まり、経済政策への不安が拭えない状況。

7. 重要鉱物の争奪戦

- 予想: リチウム、コバルト、レアアースなどの重要鉱物を巡る地政学的競争が激化する。
- 実際: 鉱物資源の確保を巡る競争は続いた。米中対立の影響でサプライチェーンの分断が進み、特にEV用バッテリーや半導体の製造に必要な鉱物を巡る争奪戦が激化した。

8. インフレによる経済的逆風

- 予想: 世界的なインフレが続き、経済成長を鈍化させる。
- 実際: インフレは一部の国で鈍化し始めたものの、エネルギーや食料品価格の上昇が続き、特に欧州や新興国で家計への打撃が顕著であった。米国では高金利が長期化し、景気回復が遅れた。

9. エルニーニョ再来

- 予想: エルニーニョ現象により異常気象が発生し、食料供給や経済活動に影響を与える。
- 実際: エルニーニョ現象が発生し、世界各地で異常気象が続いた。日本では猛暑や大雨が増加し、南米では干ばつが農業生産に深刻な影響を与えた。

10. 分断が進む米国でビジネス展開する企業のリスク

- 予想: 米国の分断が深まり、米国市場に依存する企業にリスクが増大する。
- 実際: 米国の政治的・社会的分断が続き、企業のブランディングや経営戦略に影響を及ぼした。文化的・政治的対立が企業のマーケティングに波及し、不買運動や訴訟リスクも発生した。

総括コメント

2024年に予想された「10大リスク」は多くの点で現実化した。地政学リスク（中東、ウクライナ、ならず者国家）や気候変動（エルニーニョ現象）は特に顕著であり、AIや重要鉱物を巡る競争も加速した。米中対立と米国内の分断は引き続き世界経済に影響を与える重要な要素である。

2025年に向けては、これらのリスクがさらに複雑化・長期化する可能性が高く、国際社会や企業は対応を迫られる局面が続くものと思われる。

～2025年 Top of Risks～

2025年はトランプ大統領に振り回される年になりそうだ。就任前にして既に他国（中国、カナダ、メキシコなど）に圧力をかけたり、グリーンランド買収発言など世界を戦々恐々とさせている。今回のユーラシアグループのTop10リスクも半分はトランプがらみのリスクである。日本も主体的に動いていかないとどんどんと後手後手に回るリスクをはらんでいる。

例年取り上げているユーラシア・グループの2025年のTop of Risks をご紹介する。

1. 深まる G ゼロ世界の混迷
2. トランプの支配
3. 米中決裂
4. トランプノミクス
5. ならず者国家のままのロシア
6. 追い詰められたイラン
7. 世界経済への負の押し付け
8. 制御不能な AI
9. 統治なき領域の拡大
10. 米国とメキシコの対立

リスク1: 深まるGゼロ世界の混迷

● Gゼロ世界の概念

- グローバルな課題への対応を主導し、国際秩序を維持する思想・能力を持つ国家や国家の集まりが存在しない状態。世界的なリーダーシップの欠如は危機的なレベルまで深刻化している。

● 2025年に想定される悪化の影響

- 地政学的な不安定が常態化し、力の空白が広がる。
- 国際経済体制がさらに脆弱化する。
- グローバルリーダーシップの欠如により、重大な国際危機や新たな世界大戦のリスクが高まる。

● Gゼロ世界を支える国際機関の脆弱化

- 国連安全保障理事会やIMFなど、主要な国際機関が現実のパワーバランスを反映していない。

● 背景要因

- 西側諸国が冷戦後の国際秩序へのロシア統合に失敗したこと。
- ロシアは国際舞台で混乱を生もうとする他の主体、とりわけ北朝鮮やイランと軍事的・戦略的パートナーシップを積極的に構築している。
- 中国の経済成長とともに民主化が進まず、西側諸国との緊張が増加したこと。
- 先進国の市民がグローバリズムへの不信感を強め、政府や民主主義への信頼を失っていること。

● 世界的な問題を解決するために必要な努力

- 現行の国際機関を改革して機能性を向上させる。
- 新たな国際体制を構築し、より正当性のある仕組みを作る。
- 古い体制を破壊し、「力」による新規則を強制する。

● 追加の懸念点

- 米中両国が国内問題を優先し、国際課題に対するリーダーシップを放棄。
- 主要国が国際協力を避ける一方で、気候変動や技術革新に伴う地球規模の課題が山積み。
- 無責任な国家や非国家主体が力を増し、事故や紛争の可能性が高まる。
- グローバルな政策調整の欠如が経済危機を誘発する可能性。

～2025年 Top of Risks～

リスク2: トランプの支配

- **2024年大統領選挙での大勝**
 - トランプの政権は、2024年大統領選挙での大勝を受け、前回以上に強固な体制を整備。
 - 経験豊富な忠実な側近や政治的盟友を中心とした組織で、政策実行力が向上。
- **主な政策動向**
 - 「ディープ・ステート（闇の政府）」の解体を優先し、連邦機関の独立性を削ぐ政策を推進。
 - 司法省やFBIなど、政権に批判的とされる組織の粛清を目指し、忠誠を誓う人物を要職に起用。
 - 権限集中を進め、連邦予算の配分権限を活用して、議会で反対票を投じた議員や企業に報復措置をちらつかせる。
- **政治的手法とその影響**
 - 政治的敵対者への攻撃や粛清を通じて反対意見を萎縮させる戦術。
 - 法の下での平等やプロセスの中立性が侵され、米国民主義の基盤が弱体化する懸念。
 - 主要政策決定が規範よりも権力者の意向に依存する構造に移行。
- **経済への影響**
 - トランプ政権に近い企業への優遇措置の拡大により、公平な競争環境が損なわれる。
 - 政策変動性の増大が投資家や企業の不確実性を高め、米国経済の長期的成長を阻害。
- **制度的防御と限界**
 - 米国の制度的ガードレール（憲法、司法、独立メディアなど）は依然存在し、トランプの一方的な支配を抑制する役割を果たす。
 - しかし、一方で、X（旧ツイッター）やポピュリストのポッドキャストの影響力は高まり、最高裁判所では保守派判事が6対3で多数を占めるなど、保守派の色彩が強くなっている。
 - 長期的には規範の侵食が進む可能性が高く、次世代の民主主義の強度が問われる局面に突入。

リスク3: 米中決裂

- **トランプの政策による挑発**
 - トランプ政権は中国製品に対する大規模な関税引き上げを実施し、中国の経済基盤に打撃を与える政策を強化。
 - テクノロジー分野では、中国企業への輸出規制や技術封じ込めを強化し、中国の技術革新を抑え込む動きを加速。
 - 台湾との関係強化を含む一連の行動が中国の警戒心を高め、対立を深刻化。
- **中国側の反応**
 - 重要金属やレアアースの輸出規制を強化し、米国のハイテク産業に影響を与える。
 - 米国製品への報復関税や市場アクセス制限を通じて対抗。
 - 軍事的行動として、台湾海峡や南シナ海での活動を活発化させる可能性。
- **経済的影響**
 - グローバルサプライチェーンが分断され、世界経済全体の効率性が低下。
 - 米中貿易関係の悪化が企業の生産コストを押し上げ、消費者物価の上昇を招く。
 - 投資家心理が冷え込み、特にアジア太平洋地域の経済成長に影響を与える。
- **安全保障への影響**
 - 軍事的緊張の高まりが、米中双方の国防支出を増大させる。
 - 台湾をめぐる直接的な軍事衝突のリスクが高まる。
 - 国際協調が後退し、他の地域紛争にも波及する懸念。
- **全体的なリスク**
 - 米中関係の悪化が新たな冷戦構造を形成し、世界の二極化を加速。
 - 各国が米中どちらかの陣営に属することを強いられ、地政学的な選択が経済政策にも影響。

～2025年 Top of Risks～

リスク4: トランプノミクス

- **トランプ政策の概要**
 - トランプノミクスは、保護主義的な貿易政策や移民規制の強化を中心に構築されている。
 - 減税政策や規制緩和を通じた経済成長の促進が主張される一方、財政赤字の増加という課題が伴う。
- **主要な政策要素**
 - 新関税政策：外国製品に対する高関税の適用により、米国製品の競争力を高めることを狙う。
 - 不法移民送還：移民労働者の減少が一部産業に労働力不足をもたらす。
 - 減税政策：企業や高所得者層に有利な税制改革が実施されるが、所得格差の拡大が懸念される。
 - 規制緩和：エネルギー産業や金融分野を中心に規制が緩和され、短期的な経済成長が期待される。
- **経済への影響**
 - 短期的な成長促進：減税と規制緩和により一部産業が活性化。
 - 長期的な不均衡：財政赤字の増加が国債利回りを押し上げ、経済全体の持続可能性が問われる。
 - 消費者への影響：関税政策による輸入品価格の上昇が購買力を低下させる可能性。
- **労働市場の変化**
 - 技術職やエネルギー分野の雇用増加が期待される一方で、製造業など一部の職種では自動化が進行。
 - 移民規制による労働供給の減少が、一部の低賃金労働市場に深刻な影響を与える。
- **グローバル経済への影響**
 - 米国の貿易政策が各国の経済政策に波及し、保護主義が拡大する可能性。
 - 世界経済全体の成長率が鈍化し、特に新興国が大きな影響を受ける。

リスク5: ならず者国家のままのロシア

- **ロシアの地政学的行動**
 - ロシアは北朝鮮やイランなどと連携し、西側諸国に対抗する地政学的同盟を強化。
 - サイバー攻撃、情報操作、エネルギー供給の武器化といった非対称的な戦術を展開。
- **国際経済への影響**
 - 天然ガス供給の停止やエネルギー価格の変動を通じて、欧州経済に深刻な混乱を引き起こす。
 - 国際経済改革への妨害行動や、国際的制裁への対抗策を実施。
- **軍事的挑発**
 - ウクライナやジョージアなどの周辺国に対する侵攻や脅威が継続。
 - NATOへの対抗行動や軍事的な緊張のエスカレーション。

～2025年 Top of Risks～

リスク6: 追い詰められたイラン

- **制裁と経済的孤立**
 - イランは核開発を進める中で国際制裁を強化され、経済が悪化。
 - 石油収入の減少と国際市場からの孤立が国民生活を圧迫。
- **国内情勢の悪化**
 - 経済危機や政府への不満が増大し、抗議運動や社会不安が拡大。
 - 政権の存続をめぐり、内部的な権力闘争が激化。
- **地域への影響**
 - 中東全体の安定性を脅かす行動を強化し、代理戦争やミサイル攻撃を実施。
 - イランの影響力を拡大するための武装勢力支援が継続。

リスク7: 世界経済への負の押し付け

- **グローバルサプライチェーンの崩壊**
 - 米中貿易摩擦や地政学的リスクにより、サプライチェーンが脆弱化。
 - 主要資源や部品の供給障害が発生し、製造業や物流業界が大打撃を受ける。
- **多国間協調の欠如**
 - 各国が国内経済を優先し、国際的な経済問題への協調的対応が困難に。
 - 世界経済が持続的な低成長状態に陥る可能性。
- **負担の不均衡**
 - 経済危機の影響が特に新興国や開発途上国に集中し、不平等が拡大。

リスク8: 制御不能なAI

- **技術開発の暴走**
 - 競争激化により倫理規範を無視したAI技術の開発が進行。
 - 不完全なAIシステムが社会インフラや重要産業に導入されるリスクが拡大。
- **セキュリティリスク**
 - サイバー攻撃に利用されるAI技術が急速に進化し、国家や企業の防御体制を突破。
 - ディープフェイク技術が政治的混乱や社会不信を助長。
- **経済および社会への影響**
 - 人間の労働力の大規模な置き換えが進み、失業率が増加。
 - 不平等の拡大や倫理的問題への対応が遅れる可能性。

リスク9: 統治なき領域の拡大

- **国際法の弱体化**
 - 内戦や犯罪組織が国家の統治を奪い、法と秩序が失われる地域が拡大。
 - 海賊行為や麻薬取引など、国際犯罪が活発化。
- **非国家主体の台頭**
 - 武装勢力やテロ組織が影響力を拡大し、地域紛争を長期化させる。
 - 新興技術を利用した非対称戦争が多発。
- **人道的危機の深刻化**
 - 難民や国内避難民が増加し、国際社会の支援能力を超える規模に達する。

～2025年 Top of Risks～

リスク10: 米国とメキシコの対立

- **移民政策の強化**
 - 米国が移民抑制政策をさらに強化し、国境警備を拡大。
 - 移民問題が米墨関係における最大の火種となる。
- **経済的な緊張**
 - 米国の関税政策や貿易協定見直しにより、メキシコ経済が悪化。
 - 両国間の経済的相互依存が破壊され、地域経済の不安定化を招く。
- **治安の悪化**
 - 麻薬カルテルや犯罪組織の活動が活発化し、国境地域の治安が悪化。
 - 国際的な犯罪ネットワークが拡大し、対策が難航。

日本への影響についての要点と詳細な内容

1. Gゼロ世界の混迷

- **要点**
 - 国際的なリーダーシップ不在による地政学的混乱。
 - 経済・安全保障上の問題への対応能力が低下。
- **詳細** 日本は多国間主義を基盤としており、Gゼロ世界では国際協力が停滞。貿易依存度が高い日本経済は、貿易摩擦や地政学的緊張により大きな影響を受ける。また、周辺地域（東アジア）での安全保障環境が悪化し、中国や北朝鮮の動向への対策が迫られる。

2. トランプの支配

- **要点**
 - 米国の単独主義強化による日本の安全保障への影響。
 - 貿易交渉での一方的な要求。
- **詳細** 日本は日米同盟を基軸としているが、トランプ政権が米軍駐留費の負担増や防衛装備品の購入を一方的に求める可能性がある。また、米国市場への依存度が高い日本の輸出企業は、関税や規制の影響を受けるリスクがある。

3. 米中決裂

- **要点**
 - 米中の経済対立によるサプライチェーンの混乱。
 - 安全保障上の緊張増大。
- **詳細** 日本の輸出産業は、米中の対立による供給網の寸断やコスト増に直面。特に自動車や電子部品産業に影響が大きい。また、台湾有事が発生した場合、日本は米国と中国の狭間で難しい対応を迫られる。

4. トランプノミクス

- **要点**
 - 保護主義政策の影響。
 - 移民規制による米国内需の縮小。
- **詳細** 日本製品に対する関税の引き上げや、貿易不均衡是正要求が強化されるリスクがある。さらに、移民規制で米国の需要が縮小すれば、日本の輸出市場にも悪影響が及ぶ可能性がある。

～2025年 Top of Risks～

5. ならず者国家のロシア

- **要点**
 - エネルギー供給の不安定化。
 - 北極圏などでの安全保障上のリスク。
- **詳細** ロシアからの天然ガス供給の不安定化がエネルギー価格に影響を及ぼす可能性。日本はエネルギー供給源を多様化する必要がある。また、北極圏におけるロシアの軍事的活動は、北東アジアの安全保障環境にも波及するリスクがある。

6. 追い詰められたイラン

- **要点**
 - 中東地域の安定への影響。
 - エネルギー供給リスク。
- **詳細** 日本は中東からの原油輸入依存度が高いため、イラン情勢の不安定化が供給に影響を与える可能性がある。さらに、ホルムズ海峡での軍事的緊張がエネルギー価格を高騰させるリスクもある。

7. 世界経済への負の押し付け

- **要点**
 - グローバルサプライチェーンの分断。
 - 新興国市場の成長鈍化。
- **詳細** サプライチェーンの混乱は日本の製造業に直接的な影響を与える。また、新興国市場の停滞が日本の輸出拡大を阻害する可能性も懸念される。

8. 制御不能なAI

- **要点**
 - 技術開発競争での遅れ。
 - サイバー攻撃リスクの増大。
- **詳細** 日本企業がAI開発競争で立ち遅れる場合、国際競争力の低下が懸念される。また、AI技術が悪用されたサイバー攻撃に対する防御体制の強化が求められる。

9. 統治なき領域の拡大

- **要点**
 - 国際法の弱体化による影響。
 - 人道危機への対応。
- **詳細** 非国家主体の台頭や海洋問題の増加は、日本の国際貿易路の安全性を脅かす可能性がある。また、難民問題が日本の外交政策にも波及するリスクがある。

10. 米国とメキシコの対立

- **要点**
 - 貿易摩擦の影響。
 - 移民政策の波及効果。
- **詳細** 米墨関係の悪化がNAFTAや日米メキシコ間の経済関係に影響を与える可能性がある。また、米国の移民政策がグローバルな経済動向に波及し、日本企業にも影響を与えるリスクが考えられる。

トランプ政権のリスクで取り上げられていなかったが、イーロン・マスク氏の存在は大きなリスクであると考えられる。X（旧ツイッター）を利用して好き勝手な発言を繰り返している。ヨーロッパ各国の政治にまで口をはさんでいる。また、今ロサンゼルスで起こっている火災についても仕組まれたものだという発言をして注目されている。（正確にはそのような発言をする極右主義者の主張に賛同している）。彼は発言の自由を主張しているが、明らかに言葉の暴力になっているのではないだろうか？また、マスク氏のビジネスに有利に働くような政策の提言をこれからトランプ氏に働きかけていくと予想される。これらイーロン・マスク氏の発言・行動は最も大きなリスクであると思う。